

## 令和6年度 我が校の学ぶ力向上策

### 【市町 目標】

IKOKA学習デザインを基盤とした、主体的・対話的な深い学びの実現を目指し、学ぶ楽しさを実感し、確かな学力を育む教育の充実

- 「読み解く力」向上を図るための授業開発、実践の推進を図る。
- 「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」のツールとしての効果的なICT活用の促進を図る。
- いじめを許さず、支え合い学び合う集団を育てる学級、学校づくりの充実を図る。

### 【学校 目標】

○佐山学びのスタイルの深化と家庭学習、読書活動の充実を図るとともに、『つたえる力』『読み解く力』の向上を図るための授業研究、実践の推進を図る。  
 ○「あいさつ運動」「認め合い」「話し合い」を通して、自己肯定感を高め、学びを支え合う「つながる」集団づくりを進める。  
 ○校内研究・OJTの推進を通して教職員の授業力向上を図り、子どもの自己有用感をはぐむ共通実践を充実させる。

### 【現状と課題】

- 視点1 話し合いは定着してきた。さらに、「つたえる力」「読み解く力」を育む子どもが主体の授業づくりを推進する必要がある。
- 視点2 安心して学べる学級づくりはできてきた。さらに、自己肯定感を高め、学びを支え合う集団づくりを進める必要がある。
- 視点3 学年部単位で効果的な実践を共有するなど、学校全体が同じ取組、実践ができるような学校づくりを進める必要がある。

### 取組事項および評価指標

※評価：【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目：9月 2回目：2月】  
 ※達成状況の割合(%)は、目標数値に対する達成状況の割合です。

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○子どもたちが主体の授業づくり～基礎学力の定着、家庭学習の充実、読書活動の充実、ICTの活用「未来を拓く子ども」…『つたえる力』『読み解く力』 ①「佐山学びのスタイル」の活用と深化、「振り返り」の充実と「つたえる力」「読み解く力」を育む授業づくり(校内研究) ②家庭学習・読書活動の充実 ③ICTの有効活用と情報活用能力の育成	①児童用アンケート「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずいろんな方法を考えているか。」強い肯定の割合を30%以上に。		
	②児童用アンケート「学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり学年×10分以上、家庭学習に取り組んでいる。」強い肯定の割合を50%以上に。		
	③児童用アンケート「ICT機器を使用することで、自分の考えを表現したり、友達の考えがよく分かったりするようになるか。」強い肯定の割合を30%以上に。		

【視点2】学びを支え合う集団づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○自己肯定感を高め、学びを支え合う集団づくり～あいさつ、認め合い、人権教育、特別支援教育、キャリア教育、特別活動(委員会・児童会)「心豊かな子ども」…『つながる力』 ①一人ひとりが互いのよさを認め合い、学びあう場と機会を設けるとともに、学習活動をはじめ、すべての教育活動の中で児童生徒一人ひとりの人間性を認め、よさを伝える。	①児童用アンケート「自分にはよいところがあるか。」強い肯定の割合を50%以上に。		
	②児童用アンケート「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら、課題の解決に取り組んでいるか。」強い肯定の割合を30%以上に。		
	③児童用アンケート「困っているときに、周りの友達にいつでも相談できるか。」強い肯定の割合を50%以上に。		

【視点3】協働して取り組む学校づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○協働して取り組む学校づくり～教職員の授業力向上(校内研・OJT)とボイスチャワーで自己有用感をはぐむ共通実践「たくましい子ども」…『つらぬく力』 ①教職員がつながって、課題を共有し、授業改善や学級経営に生かし、自己有用感を育む実践を継続して行っていく。	①児童用アンケート「学校は、毎日楽しいか。」強い肯定の割合を60%以上に。		
	②児童用アンケート「算数の授業の内容はよく分かるか。」強い肯定の割合を40%以上に。		
	③児童用アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができているか。」強い肯定の割合を60%以上に。		

### ◇手立ての検証

- ・4月の職員会議において校長が教育目標や学校経営等について伝える。それを受けて研究推進委員会を組織し、学ぶ力向上推進リーダーが「学ぶ力向上策」について校内研究全体会で説明するとともに、それぞれの取組事項に対する具体的な内容について協議する。また、取組事項は学校だよりで保護者や地域に発信する。
- ・全員で取り組む具体的な内容について共通理解し、校内研究主任が中心となって、組織的に実践につなげる。
- ・校内研究会で、取組の状況等を共有し、全国学力・学習状況調査等の調査における数値や児童用アンケート(6月)の数値をもとに、改善策についてまとめ、後半の実践につなげていく。(8月)
- ・2月の校内研究全体会で、今年度の取組の検証や来年度への改善点を話し合う。

### 今年度の取組の成果と課題

